

# 中川西元気づくりニュース

平成23年度 第1号

発行 中川西元気づくり協議会 会長 内野昌平

平成22年度、都筑区で3番目の元気づくりモデル事業の指定地区として、



中川西中学校区周辺をエリアとした元気づくりモデル事業がスタートしました！

今年度も「中川西元気づくり協議会」として、活動を続けていきます。

## 元気づくり協議会の活動の目的

- 地域の様々な団体が、地域情報を共有し、連携を深めながら、地域ぐるみで子どもたちが健やかに育つ環境づくりにつとめ、子どもたちの育ちを見守っていく。
- 地域と関わりの少ない子育て世代が地域と関わる機会をつくる。
- 地域活動の担い手の発掘

## 元気づくりモデル事業協議会のメンバー

参 与

中川連合町内会  
小中学校PTA  
小中学校おやじの会  
主任児童委員  
体育指導委員  
青少年指導員  
保護司  
まんまるプレイパーク

中川西中学校  
中川西小学校  
すみれが丘小学校  
荏田小学校  
牛久保小学校  
都筑小学校

事務局



## 事業内容

### ■ホームページの開設

地域情報の発信

### ■イベント・遊び場

異世代交流、プレイパークと連携

### ■講演会

地域で活動している人が講師

### ■地域交流

町内会、PTA、おやじの会との顔の見える関係づくり

## 活動報告その1

### 平成23年2月26日 第1回地域交流会を開催しました

これまで地域の自治会では、役員の高齢化や地域活動の担い手が不足しているといった課題が出されていました。

今回の地域交流会は、町内会の役員、青少年指導員、PTA役員、おやじの会のメンバーが、地域の課題や子どもたちとの関わり、今後の取組について意見を出し合い、顔の見える関係を築こうという趣旨のもと、企画しました。

開催日当日は休日にもかかわらず約60名の方が、会場である中川西地区センターへ足を運んでくださいました。

今回のテーマは「小中学生が地域と触れ合うには?」「保護者が地域に関心を持つには?」でしたが、地域に関心が薄いといわれている小中学生の子どもたちやその親世代へ、どんなアプローチをしていけばいいのか?子育て世代が考える地域活動とはどんなものか?など真剣な意見交換がされていました。日頃交流することが少ない町内会の方と子育て世代が、同じテーブルについて語り合うことができ、大きい収穫となりました。

このような形で今後も2回、3回と回を重ねて、地域ぐるみで具体的に取り組む活動につなげていきたいと思います。



元気づくりモデル事業の取組を紹介



60名が4つのグループに分かれました

ご参加いただいた皆様

中川西町内会・あゆみが丘町内会・牛久保西町内会  
中川東町内会・牛久保町内会・青少年指導員、中川西小学校PTA、都筑小学校おやじの会ほか  
中川西周辺地区元気づくりモデル事業協議会委員



どのグループも活発な意見交換がされました



グループ内で話し合ったことをそれぞれ発表。日々の生活の中で感じた課題がたくさんげかけられました

# 地域交流会で出された主な意見

## 課 題

### 【子ども関連】

- ・子どもたちだけでなく保護者も一緒に参加してもらえる活動がしたい
- ・子ども時代からボランティア精神を学んでほしい
- ・時代が違う。挨拶ができない子がたくさんいる
- ・地域の行事には参加する子としない子が固定化している
- ・最近の子は環境をつくってあげないとつながれない
- ・公園は野球がダメ、など規則が多くおもいきり遊べる場所がない
- ・イベントは子どもが小さい頃は親子連れで来るが、成長すると来なくなる
- ・習いごとが多く、時間もない、忙しい子どもが多い
- ・子どもの地域での様子を保護者に見てもらいたい
- ・保護者も忙しいのが現実

### 【環境】

- ・道路（歩道）にゴミが落ちていて汚い
- ・まちなかにゴミが落ちている
- ・掃除することも大切だが、汚さない教育も必要

### 【地域との関係】

- ・公園愛護会、学援隊など募集してもなり手がない
- ・子ども会の担い手不足は深刻化している
- ・火の用心のパトロールなど午後八時以降は苦情が来るのでできない
- ・転入、転出が多く、顔が見える関係をつくれな
- ・若い世帯は自治会には加入しない人が多い
- ・ボランティア活動で子どもに関わっても、保護者との接点はつけれない

## 提 案

- ◆防災訓練など地域の行事に子どもたちの参加を積極的に呼びかける
- ◆学校と連携して災害時中学生が役割を担えるようなまちにしてい
- ◆休日に親子で楽しめるようなイベントで、地域へ出てきてもら
- ◆公園については、地域の共有スペースとして新たなルール作りが必要
- ◆子どもが地域の行事に関心を持つように広報する



- ◆道路や遊歩道などの清掃を大人と子どもと一緒に
- ◆地域清掃をとおしてまちの美化に関心をもってもら

- ◆学校から地域の情報を流すと保護者にも情報がいきとど
- ◆まずは挨拶運動などで大人とも子どもとも顔が見える関係づくりをすすめる
- ◆地域のホームページを情報共有のツールとして活用する

地域交流会ではたくさんのご意見やご提案をいただきました。  
お忙しい中ご出席くださった皆様ありがとうございました。  
ご出席いただいた地域の皆様のご意見を参考にしながら、  
平成23年度 of 取組について考えていきたいと思





#### 手作り遊具

8時30分に八幡山公園に集合。八幡山公園愛護会の方の協力を得て、おやじの会の皆さんとともに竹林の竹を切らせていただきました。トラックで牛久保公園まで運んでいただき、プレイリーダーの指導のもと高さ4メートルのティピを作りました。公園に来たら真っ先に目いくこの遊具。子どもが、20人のっても大丈夫！ 雑木林の中のロープ遊具もリーダーとお父さんたちでつけました。1日中子どもたちの歓声が絶えませんでした。

#### プレイパークってなに？

プレイパークは自分の責任で自由に遊ぶをモットーに、普段は禁止されている焚き火や、木のぼり、ターザンロープ、水遊び、など季節を感じながら思い思いに遊ぶことができます。プレイパークには常にプレイリーダーという大人がいます。子どもたちの気持ちに寄り添い遊びの世界を広げます。プレイパークは地域やボランティアを中心とした非営利の自主的な活動です。趣旨に賛同する個人、団体の誰もが無料で自由に遊ぶことができます。そのかわり『けがと弁当は自分持ち』が合言葉です。開催日には大勢の子どもたちが集まり、自由に遊んでいます。子どもだけでなく大人も自由に遊びやイベントに参加したり、子どもたちの遊びを見守ることで大切な支え手となります。牛久保公園では年に数回、まんまるプレイパークと地域の協議会が共催で開催しています。



#### 工作ができる場

チャレンジつづきの方にお手伝いいただき、公園内の竹を使って、のこぎりやきりなどの道具で、子どもたちが思い思いのものを作りました。



#### たき火

プレイパークでの人気ナンバー1は、たき火ができること。普段の公園はたき火禁止ですが、プレイパーク開催日には楽しむことができます。この日もたくさんの人でにぎわっていました。焼きいもやマシュマロのおいしさには笑顔と歓声が。あまりに人が集まりすぎて ドキドキする場面もありました。



#### 編集後記

第1号では、平成22年度の取組を報告しました。平成23年度も地域の皆さんとともに、中川西中学校区を元気にする活動を続けていきます。6月頃には地域のホームページが開設予定です。ホームページの運営ボランティアも募集しています。興味のある方は下記のアドレスへご連絡ください。

問合せ先 中川西元気づくり協議会 事務局 竹内 [5.29yukari@gmail.com](mailto:5.29yukari@gmail.com)